

Ipex2010 とデジタル印刷教育（第2報）

国際印刷大学校長

木下 堯博

Ipex2010（Birmingham市）に参加するため、2010年5月17日にLondon入りし、5月18日から4日間見学、更に、産業革命の発祥地Manchester市や工業都市のCoventry市、London市などの各大学で印刷メディアに関するNVQ（National Vocational Qualification）などの調査を行い、5月25日に帰国した。Ipexは2002、2006年に続き3回目であるが、1964年ドイツに留学していた折、Cambridge Uni.を訪問して以来、計4回のイギリス訪問となる。今回のIpexでは**デジタル関連の展示**が従来のアナログ方式を**上廻り**、Ipex Daily（会期中に毎日発行される新聞）ではオフセット印刷とデジタル印刷の比較論が展開されていた。印刷メディア系大学の展示はLeeds City College, Leicester College, University of West of England、LCCなど、研究機関はPIRA, Fograの出展があった。

会場数は、前回同様、11ホールであったが、出展社数、面積ともに**約30%減少**していた。今回の特徴は上海電気を中心として、中国からの出展が目立ち、中国の経済活動が世界の景気を持続させている印象があった。韓国も「直指心体要節」「**UNESCO ; Memory of the World 指定**」(1377年金属活字印刷)の版を持ち込み印刷の実演を行うと同時に、9月8日から行われるKIPES展（Seoul, KINTEX）の宣伝をしていた。

展示の最大面積はHewlett-Packard Companyで2870平方メートルにT200のColor Inkjet Web Press, Indigo7500Digital Pressなどを実演していた。Indigo7500はIn line フィニッシング環境のインターフェースと汚れ検出テクノロジーがあり、最大10%の生産向上がある。XeroxはColor 1000 Pressでクリアートナー（5色目）を搭載し、固体インキのインクジェット機、富士フイルム(株)はFuji Jetpress720, 大日本スクリーン製造(株)がTrue Press Jet SXのInkjet印刷機を出展し、注目された。それぞれ、印刷の実演とサンプル配布のサービスを行った。Ink Jet方式の印刷に関しては2009年度トステム(株)からの委託研究で、富士フイルムの協力により、行ったが、色再現領域はオフセット印刷よりも広域であり、色彩コントロールは容易であった。

一般印刷物は、電子書籍や電子カタログ、家庭用のプリンター更にはi-Padなどに移行しつつあり、需要が減少傾向にある。これはイギリスでも同じ状況にあり、人口減少、高齢化とともに重厚長大型の印刷装置は将来、徐々に縮小せざるを得ないであろう。

アメリカのGoss International社（オフセット輪転機）は上海電気グループ(Mega J Print40の出展)に、経営権を委譲することになり、会期中の5月23日の記者発表でXu社長の挨拶があった。Heidelberg社は今回のIpexで二番目の展示面積（2448平方メートル）を有し、SM CX102-5+Lを中心に展示し、Short Run, Green Print, Lean Manufacturingなどを全面に打ち出した。KBAはRapida 75Eにて90分で11Jobsをこなす実演を行った。小森は紙厚みの爪調整なしのEnthroner、更に、Lithrone SX40はIpex Dailyを毎日に印刷し、この2010年5月23日号ではこれらB2サイズのOffsetと先に述

べた Jet Press720 と True Press Jet SX の紙上での議論が掲載された。その他、デジタル印刷機は Océ, Xeikon, Kodak, Konica Minolta, Canon, Ricoh, Epson, Riso, Agfa, Mimaki, Oki 各社からの出展があり、製本関連は POD 用製本が中心であった。

これらは印刷企業その他、Skillless の観点から一般ユーザーにも導入されるケースがある。大学の出版局でも Cambridge Uni. は Canon System の更新を計り、Oxford Uni. はネット構築を行った。日本でも崇城大学出版センター（熊本市）ではオフセット印刷機からデジタル印刷機に切り替えていた。このデジタル印刷教育の分野で Proskills 社（今回初出展）は Leicester 大学と協力してデジタル教育のカリキュラムを開発した。Digital Media Production, CMS, Digital Print Production など NVQ Level 2~4 の認証を得て、新人教育や失業対策のみならず、**在職者の高度人材育成**にも活用されている。このような職業資格と大学の学位の関連は全国資格フレームワーク（NQF, National Qualification Framework）で整備され、大学の学部レベルでは職業資格として NVQ Level 4 に該当させ、学習方法で選択幅を拡大させるため、QCF(Qualification & Credit Framework)制度の導入が開始された。

日本でもこのイギリスの職業訓練制度を導入し、2008 年から Job Card 制度が始まった。東京グラフィックサービス工業会では実践型人材養成システムを開始、2009 年度印刷営業、製版、DTP、印刷のカリキュラムを構築し、訓練終了後の評価シートもまとめた。2010 年 4 月から新入社員 22 名（6 社）の Off-JT 及び企業での OJT が 9 月まで行われ、その結果の対応として、カリキュラムなどの検証を本年度行い、2011 年 3 月には 2 年間の成果をまとめる。イギリスでは新しいデジタル印刷技術導入に伴う、教育システムは職業訓練と学校教育と連携させ、技能・学習レベルを向上させ、国際競争力を高める政策が人材育成の基本にあることがわかった。日本は新しくデジタル印刷教育を幅広い分野（産業界、学会、識者など）から構築して行くことが緊急課題であろう。本論文は 2010 年 6 月 12 日、九州印刷機材展記念セミナーで水上会長の業態変革に続いて、PPT130 枚を用い第 1 報として、報告した。**第 2 報は東京国際 Book Fair 開催中の 7 月 9 日に PPT156 枚を用い CD 勉強会**で行う。これら内容の一部は 7 月更新の HP www.media-igu.com に掲載している。

連絡先； kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp

参考文献

- (1) 木下堯博；PreIpeX2010 と最新印刷メディア情報、第 1 報～第 3 報(2010 4 月 20 日～ 5 月 17 日)
- (2) IpeX2010 Event Catalogue (282P) 18-25 May 2010
- (3) InterGraf; Europe and the Printing Industry Statistics (2009)
- (4) F. Romano; The Future of Print in 21st Century (2010 5 18)
- (5) Leicester College; Employers' Guide to Training - Print & Media - (2010-5-20)
- (6) IpeX Daily 18 May ~25May2010
- (7)木下堯博；IpeX2010 と最新印刷メディア情報（別冊資料 290pp, 2010-6-12、九州印刷機材展）

(Received 9 July 2010)